

令和7年度の学校経営構想

牧之原市立萩間小学校長

1 本校児童の姿

(1) 全校児童数及び学級数 132人（通常学級6、特別支援学級2、計8学級）

(2) 長所

- 優しく、穏やかな子供が多い。
- 生徒指導上の大きな問題が少ない。
- 健やかに心身が成長している子供が多い。

※要因として考えられること

- ・家庭、地域など、多くの大人に愛されている基盤をもち、明るく、素直で屈託のない笑顔を見せる子供が多い。
- ・どの学年も30人以下あるため、一斉指導の場においても教員が一人一人に目を配りやすい。
- ・豊かな体験活動が根付き、地域の多くの方たちと関わりを重ねている。

(3) 課題

▲単学級による人間関係の固定化

→人間関係の悩みや、固定化された自分のイメージを変えることの難しさ

▲学級内の学力差

→授業の内容を理解できない子供、授業への参加意欲が低い子供がいる

▲行事等で育った自信や資質能力が、その後の学校生活につながっていない子供がいる。

▲自己肯定感が低い傾向

「自分のことが好き」 R6 前期 64.5%、後期 69.5%

2 経営理念（めざす学校像）【令和7年度 新規設定】

自己肯定感の高まる学校

(1) 経営理念変更の理由

～R6年度 「人生の土台」をつくる学びの場としての学校



学校の全教育活動を通してめざす学校像として、焦点化

R7年度 自己肯定感の高まる学校

(2) 自己肯定感とは？

ア 定義

- ・自分の在り方を積極的に評価できる感情
- ・自らの価値や存在意義を肯定できる感情

イ 自己肯定感の必要性

- ・物事に取り組む意欲や幸せに大きな影響
- ・困難なことがあったときに、前向きに頑張ろうとする原動力になるもの

(3) 経営理念に込める願い

「自分から やってみよう」と動き出した子供が、挑戦できた自分に自信を持つとともに、挑戦を通して充実感や達成感を味わい、そこで得た成功体験や失敗体験を生かして次の挑戦につなげていくことで、自己肯定感を高めていきたい。

(4) 経営の重点

ア どの子供も真剣に取り組み、「分かった、できた」「考えが広がった、深まった」を実感できる授業づくり

- ・子供が主体的に学び、確かな学力を身につけることができる授業づくりを推進する。

イ 発達支持的生徒指導を基盤とする、望ましい集団活動を通した温かい人間関係作りと主体性、自己肯定感の育成

- ・安心・安全に生活できる学校・学級にするとともに、友達と高め合うことができる学校・学級をつくる。

ウ 地域への愛着の育成

- ・地域と連携した活動が、より持続可能で、子供の成長をより支えることのできる活動となるようにする。

エ 学び続ける職員集団

- ・教職員一人一人が授業力・生徒指導力を伸ばすとともに、組織的な教育活動を展開する。

3 学校教育目標【平成 26 年度～】

自ら学び 共に伸びる

(1) 継続理由

- ・どのような時代であっても、子供たちが成長していく上で必要な力、社会に出てからも必要な力であるため。
- ・新しい価値や文化を創造していくこれからの時代を生きる子供たちにとっても、特に必要となる力であるため。

＜小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総則編＞

※「第 1 章 1 (1) 改訂の経緯」より抜粋

学校教育には、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている。

(2) 学校教育目標に込める願い

自己理解・他者理解に基づき、優しさとしなやかさを身につけた力強い「個」の育成をめざす。

- ・自分の足で立ち、自分の頭で考え、他者と対話する中で課題に気付き、皆で解決する学びの楽しさや喜びを味わわせたい。
- ・一人一人が自ら学び、互いのよさを認め合い、共に伸びていく学校でありたい。

4 重点目標【令和5年度～】

自分から やってみよう

(1) これまでの経緯

本校では、子供一人一人に目が行き届く環境でありながら、単学級による人間関係の固定化の影響から、例年「主体性」に類する資質・能力が課題と挙げられた。失敗を恐れ、なかなか自分から動き出せない子供が多い実態があることから、令和5年度に「自分から やってみよう」の重点目標を掲げ、「まずは、やってみよう」「失敗しても、やってみよう」「みんなで、やってみよう」等の目指したい子供の姿に向かって、“まずはやってみよう”と、子供自ら湧き出したものを大事に価値付けた。

ア 令和5年度

- ・特に、委員会活動を大切にし、常時活動だけでなくよりよい学校にするためにどのような活動ができるかを考えて、様々な取組に挑戦
→縦割り活動が活発化したり、「挑戦する」ための機会をもったりし、関わることの楽しさや達成感を味わうことができた。

イ 令和6年度

- ・「やってみよう」の文言にこめられた願いや、つけたい力の意味を明確化

(ア) 「やってみよう」の文言にこめた願い

自他を大切にし、よりよい関わりの中で自己表現できる力強い個の育成

(イ) つけたい力

- ①課題を自分事として主体的に捉え、友達と共同して解決することができる実行力やコミュニケーション力
- ②課題解決や目標達成のために継続して挑戦する姿勢
- ③失敗を受け止めてもう一度挑戦しようとするレジリエンス力

(ウ) 手立て

- ①動機付けの工夫
- ②個の見取りや価値づけ
- ③教職員や地域の方々・友達同士の関わりの重視
- ④委員会活動や特別活動における自分たちで考えて実行する場の設定

→自分から動き出すことのできる子供が増加。一方で、次の5点が課題。

<課題>

- ①依然として動き出すことのできない子供がいる。
- ②動き出したけれども上手くいかずに途中で諦めてしまう子供がいる。
- ③成功体験や失敗体験を次に活かすことのできない子供がいる
- ④周りに与える影響を考えずに動き出してしまっている子供がいる。
- ⑤子供の自己肯定感が低い。

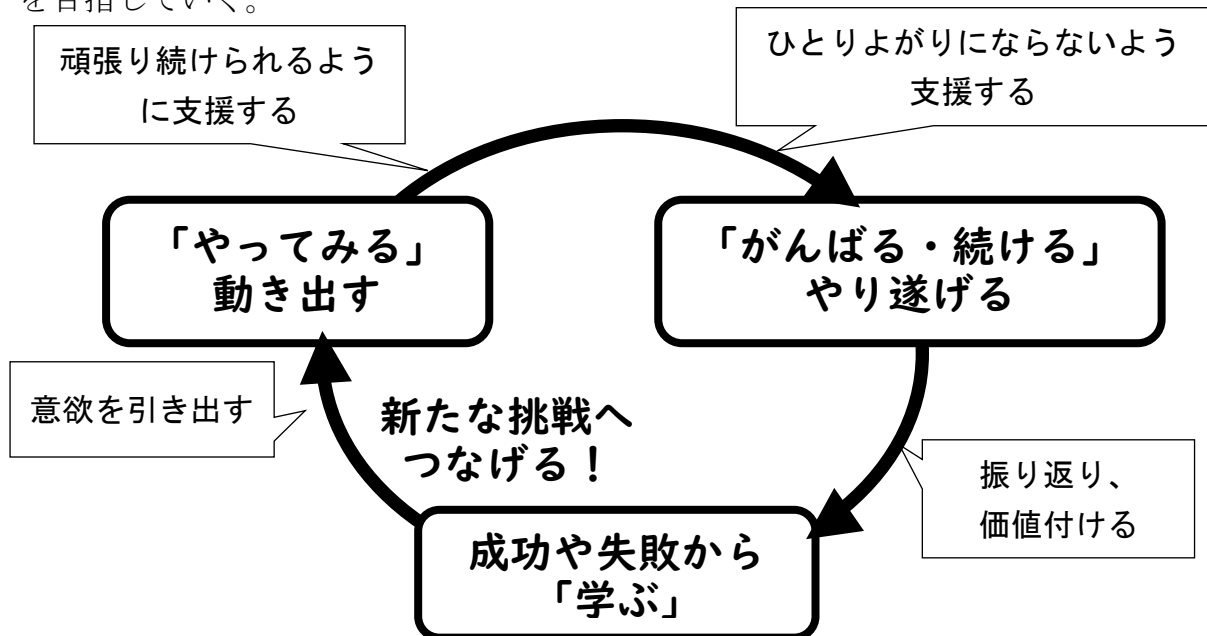
※学校評価の「自分のことが好き」の評価項目における子供の肯定回答群
前期 64.5%、後期 69.5%

(2) 令和7年度の重点目標に込める願い

令和7年度は、令和5、6年度の成果を生かすとともに、上記の課題を克服し、子供の自己肯定感を高めていくために、「自分から やってみよう」を継続する。

授業や行事、日常生活等の中で、自分や自分たちの目標や課題に向かって、「自分から やってみよう」という気持ちで取り組み、そこから得た成功体験や失敗経験を次に活かしていくことは、自分の生き方を充実したものにするために、必要不可欠なことである。それを積み重ねていくことで、子供は自己肯定感を高めていく。

そのため、令和7年度は、私たち教職員は、子供たちの「やってみよう」という意欲を引き出すだけでなく、「やってみよう」と動き出した子供たちが頑張り続けられるよう教師が支援していくこと、そして子供が成功や失敗から学び、新たな挑戦へつなげていくことができるように支援し、「自分から やってみよう」のサイクルを回して積み重ねていくことで、子供の自己肯定感を高めていく学校づくりを目指していく。



この積み重ねが、自己肯定感へ！

(3) 重点的に育成を目指す資質・能力

子供たちが、「自分から やってみよう」のサイクルを回し、自己肯定感を高めることができるようにするために、重点的に育成していく資質・能力を、牧之原市「起郷家教育で育む資質・能力」に基づき、次の6点とする。

- ①主体性：物事に進んで取り組む力
- ②レジリエンス：困難な状況でもしなやかに対応する力
- ③実行力：課題解決に取り組む力
- ④他者理解：他者の多様な個性を理解し、互いに認め合う力
- ⑤コミュニケーション力：多様な集団・組織の中で、豊かな人間関係を築く力
- ⑥判断力：自らにふさわしい選択・決定を行う力

6 成果指標と数値目標

No.	成果指標	目標値	経営理念	学校教育目標	経営の重点	R6.12
1	授業の中で、自分の考えをもつことができている。	90%以上		○	ア	85.2%
2	授業の中で、先生や学級みんなの話を聞くことができている。	90%以上		○	アイ	90.0%
3	授業の中で、自分の考えを先生や学級みんなに言うことができている。	80%以上		○	アイ	69.0%
4	授業が楽しい。	85%以上			ア	84.5%
5	授業で、学習していることがわかる。	90%以上			ア	93.0%
6	地域の方と一緒にいる体験学習が楽しい。	90%以上			ウ	97.9%
7	地域の人・もの・ことに関わる学習を通して、地域が好きになっている。	90%以上		○	ウ	93.7%
8	自分から進んで、あいさつをすることができている。	90%以上		○		78.9%
9	「だ・い・じ」を守って、そうじをすることができている。	90%以上		○		82.4%
10	自分の目標をもち、その目標に向かって挑戦することができている。	80%以上	○	○	アイ	73.9%
11	学級や学校みんなと協力することができている。	85%以上		○	イ	81.7%
12	優しい話し方や正しい言葉遣いをすることができている。	80%以上		○	イ	76.1%
13	学校のきまりやルールを守ることができている。【新規】	90%以上			イ	—
14	困った時に相談できる人がいる。	90%以上			イ	91.5%
15	自分には良いところがある。【新規】	90%以上	○			—
16	自分のことが好き。	80%以上	○			69.7%
17	学校が楽しい。	90%以上	○		アイウ	84.6%
18	教職員としての専門性を磨き、自己の成長を実感できている	90%以上			エ	70%
29	仕事の効率化(タスクマネジメント・タイムマネジメント)を図ることができている	90%以上			エ	90%
20	情報が共有され、共通の方向性に向かって取り組むことができている【新規】	90%以上			エ	—